

DIGITAL SYNTHESIZER



(DS-310)

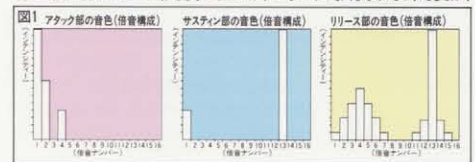
狙い通りの音が出る。デジタル音源・倍音加算型のポリフォニック・シンセサイザー・ユニット。

従来のアナログタイプ・シンセサイザーにはなかった新感覚の音をつくれるのが、デジタル・シンセサイザーDS-310。倍音加算方式なので、今までのデジタル・シンセサイザーの弱点であった不確定性・偶然性を排し、計算しながら狙いをつけた音づくりが可能。デジタルの特長を生かして、目と耳で確かめながら操作できます。しかも、8音ポリフォニック。DS-202に接続して、キースプリット機能を使えば、16音のポリフォニック・シンセサイザーとなります。音の印象を決めるのは、**音色**と**その時間的変化**です。

さまざまな楽器の音は、調べてみると、つねに変化していることがわかります。つまり、時間によって、音色や音量が異なるのです。DS-310では、この時間による変化をアタック、サステイン、リリースの3つのパートに分類。スペクトラム部で、それぞれの音色を倍音加算方式で決定し、その後、エンベロープ部で各パートごとに音量や鳴っている長さなどの時間的変化を決め、ひとつの音をつくっていきます。

まず、**スペクトラム・モード**で、倍音加算方式による**音色**づくり。

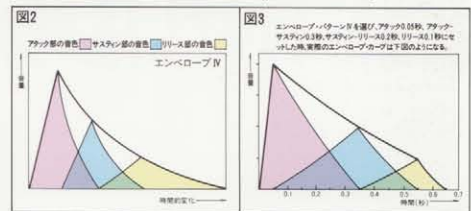
最初にスペクトラム・モードで、アタック、サステイン、リリースの各パートの音色をつくり、この際に、DS-310では倍音加算方式を用いるのです。音色は、ある特定の倍音構成比からできています。たとえば、フルートの音色は、低次倍音の多い倍音構成であり、ピアノは高次倍音を多く含んだ倍音構成になっています。DS-310では、16音まで設定可能。各倍音ごとに、15段階に渡って強さ(インテンシティ)を決められるようになっています。そのため、たとえば、



No.14 ~ No.16の高次倍音だけで、他の倍音をまったく含まない音色をつくることも可能になり、自在な音づくりが楽しめるのです。

次に、**エンベロープ・モード**で**時間的変化**を決定。

スペクトラム部でつくった3種類の音色を、どのくらいの音量で、どれだけの時間鳴らすか、つまり音色の時間的変化を、今度はエンベロープ・モードで決めていきます。まず各パートの音量は、基本になるI~IVのエンベロープ・パターンの中から選びます。たとえばIVのパターンを選ぶと、各パートの音色の鳴り方は、(図2)のようになります。さらに、変化する時間の長さを各パートごとに設定。アタック・パートを10秒にするか1秒にするか、サステインは、0.1秒か2秒か、この時間設定の差によって、I~IVのエンベロープ・カーブが変化(図3を参照)し、音の出方は、無限に広がるのです。



LCDパネルを見ながら、簡単に修正・変更。目と耳で確かめつつ、イメージ通りの音づくり。

スペクトラム・モードも、エンベロープ・モードも、簡単に修正や変更ができます。LCD表示を目で見て、耳で聴くらべながら、イメージにぴったりの音をつくり出してください。また、つくり出した音は4つまでメモリー可能。さらに、このメモリーした音どうしを、DS-202のサウンド・ミックスで混ぜ合わせれば、合計6種のスペクトラムを使った音がつくり出せます。

DIGITAL SEQUENCER



(DS-320)

指の動きを超えて、音楽を楽しもう。4声とコードを記憶・演奏するシーケンサー・ユニット。

単に演奏技術を聴かせるだけでなく、どんなサウンドをクリエイティブできるかが、ミュージシャンの実力を決める今日、プロがスタジオで録音する時など、コンピュータによる自動演奏がよく使われています。ただ、高価な上、操作が非常に複雑なため、一般にはなかなか普及しませんでした。その機能を、コンパクトで、グンと使いやすくなったのが、DS-320。これさえあれば、自分専用のオーケストラをかかえているようなもの。演奏技術の制約から解放はなれて、ミュージック・マインドを自在に表現できます。

楽譜を見ながら、そのまま入力できる**マニュアル・インプット**。弾けなかつたって、音楽は楽しめる。

自分の実力からすると、ちょっと難しいけど、大好きな曲。そんな曲が誰にでもあるのではないのでしょうか。また、友人のオリジナル曲を講義で渡されたけど、弾きこなせないなんてことも...。そんな時は、楽譜と照らし合わせながら、DS-320に**マニュアル・インプット**。まず、音符長スィッチ群で音の長さを選び、そのあとに鍵盤で音の高さを入力します。もちろん、付点、三連符、タイ、そして休符の入力もカンタン。LCD(液晶)パネル上には、入力した音符が表示されます。この操作を各ラインごとに繰り返して、4声までインプットできます。さらに、シンブル・フィンガー・コードを使えば、コードも入力可能。その時、LCDパネル上には、コードネームが表示されます。DS-320は、現在使われているものの中で最もカンタンに操作できるシーケンサー。ちょっと慣れば、驚くほどのスピードで入力できるようになります。

間違えたって大丈夫。修正・変更が簡単にできる使いやすいエディット機能を装備。

楽譜と照らし合わせて入力して、ついうっかり間違えたり。オリジナル曲などの場合は、あとで部分的に変更したくなったり。そんな時は、エディット・スィッチ群で、簡単に修正。インプット・データを、音符ごとや小節ごとに、進めたり戻したりできるので、あとからでも自由に変更ができます。弾けるメロディーは、リアルタイム・インプット。マルチトラック・レコーディング

感覚で、サウンドづくり。

指で弾けるメロディーや、ふと思いついたメロディーを入力する場合は、リアルタイム・インプットが便利です。鍵盤で弾いた通りに、そのまま入力。16分音符より細かい音符や、演奏の微妙なニュアンスもインプットできます。もちろん、各ラインごとに分けて4声まで入力可能。テープレコーダーに多重録音する感覚で、厚いサウンドづくりが楽しめます。

ミュージック・マインドさえあれば、使い方は無限大。

マニュアル・インプットとリアルタイム・インプットの演奏を混合することも可能。あるラインをあげておいて、あとのせるマイナスインクレイもできるので、アドリブ練習などの時、便利です。さらに、付属のデジタル・メモリー・カセット(下の写真)を使って、4曲までメモリーできるのも魅力。1度インプットしておけば、必要な時にいつでも再生できます。あとは、もう自分のイメージの広がり勝負。作曲に、アレンジにと、便利さは限界を知らません。

デジタル・メモリー・カセット(RAMカセット)

